

実施内容報告書

課題名 「昭和初期に収集された自然史標本の調査及び活用に向けた標本情報の整理と公開」

交付番号 20011

機関名及び氏名 倉敷市立自然史博物館 奥島雄一

1 事業の概要

国立科学博物館 昭和記念筑波研究資料館（つくば市）に保管されている昭和初期に岡山県内で収集され昭和天皇に献上された昆虫標本を調査し，専門家による種の同定及び標本データの整理を行った。得られた情報を印刷物として出版し，研究発表会及びポスター展示等で一般に公開した。

2 事業の目的

これまでに確認できていない古い時代の標本を調査し，当時の自然環境や正確な種の生息情報を記録に残す。その情報を整理・公表することで，今後の環境保全や希少種の評価に役立てる。また，普通種をも含めた自然史標本を後世に残すこと及び適切な管理の下に恒久的に継承していくことの意義を伝える。

3 事業の具体的実施内容及び方法

（1）事業実施主体

事業は倉敷市立自然史博物館友の会の活動として実施し，会計は同会の特別会計として総会の承認を得て運営した。研究活動は，倉敷市立自然史博物館，同友の会，国立科学博物館及び弘前大学のメンバーによる共同研究として実施した。共同研究メンバーと分担は次のとおり（五十音順）。

○岡本泰典（岡山県古代吉備文化財センター・倉敷市立自然史博物館友の会幹事）：当該資料の由来に関わる採集動員等の歴史資料の探索と情報整理。

○奥島雄一（倉敷市立自然史博物館）：調査全体の計画とスケジュール調整，調査標本の写真撮影及び本報告の取りまとめ。

○神保宇嗣（国立科学博物館 動物研究部）：ガ類同定作業。

○中村剛之（シリアゲムシ目専門，弘前大学農学生命科学部附属 白神自然環境研究センター）：シリアゲムシ目同定作業。

○並河 洋（国立科学博物館 昭和記念筑波研究資料館）：当該資料管理者として国立科学博物館昭和記念筑波研究資料館での現地調査に立ち会い，今回報告する昆虫標本及び岡山県産の植物標本について所在と現状を把握し，標本の取り扱いについての協議や宮内庁への連絡。

○三宅誠治（日本鱗翅学会評議員・同中国支部長・岡山県野生動植物調査検討会協力員・倉敷市立自然史博物館協議会委員・倉敷市立自然史博物館友の会会員）：チョウ・ガ類同定作業。

（２）事業対象標本

国立科学博物館 昭和記念筑波研究資料館に収蔵されている岡山県産昆虫標本を調査対象とした。当該資料は、昭和 5 年（1930 年）11 月に昭和天皇が陸軍特別大演習を統裁のために来岡した際、献上されたものである（写真 1）。

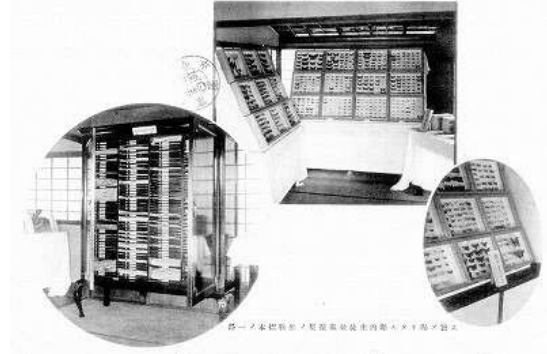


写真 1 岡山中で天覧に供された昆虫・植物標本『昭和五年十一月 陸軍特別大演習並地方行幸岡山縣記録』（岡山縣編，1932）より

（３）現地調査

計画段階では、予備調査と本調査の 2 回に分けて実施する予定であったが、コロナ禍の影響により計画を変更した。まずは写真画像による同定作業を三宅氏が可能な限り実施したうえで、10 月 12 日から 16 日に現地調査を実施した。岡山からは奥島と三宅氏、現地では神保氏と並河氏が参加した。調査概要は次の通り。

1 日目 10 月 12 日（月）

奥島が筑波研究施設着。神保氏に出迎えていただき、総合研究棟の数名の方にご挨拶した。その後、昭和記念筑波研究資料館（写真 2）にご案内いただき、並河氏と滞在期間中の予定を相談した。

昆虫標本は一か所の棚にまとめられており（写真 3）、まず、全体を確認することにした。その結果、岡山産以外に、茨城、神奈川、新潟、福井、大阪、福岡、鹿児島産の標本が保管されていることを確認できた。岡山産については、すでに神保氏から報告を受けていた昭和



写真 2 国立科学博物館 昭和記念筑波研究資料館（つくば市）の外観



写真 3 献上標本が収められた棚とその所在を確認した神保氏（10 月 12 日）



写真 4 昭和天皇コレクションの岡山県産昆虫標本の全容



写真 5 昭和天皇に献上された昆虫標本写真（一部）

5 年に献上されたと思われる 11 箱（写真 4）以外には確認できなかったが、記録に残っている昆虫写真の献上品を新たに確認することができた（写真 5）。それから、調査対象標本を動物研究部の実験実習室に移動し、広い部屋で作業した。この日は調査標本の破損個体を修復し、写真資料の撮影まで済ませた。

2 日目 10 月 13 日（火）

個体別の写真撮影に取り掛かる。時々破損個体を修復しながらの作業で時間がかかる。4 箱の撮影を完了した。午後から三宅氏が合流し、同定作業を担当していただいた（写真 6）。夜は宿泊所に帰って、撮影写真の整理をした。

3 日目 10 月 14 日（水）

標本撮影の続き。夕方まで作業して撮影は 8 割の進捗状況である。夜は宿泊所で写真整理をした。



写真 6 標本調査の様子（三宅氏）（10 月 13 日）

4 日目 10 月 15 日（木）

動物研究部部长兼昭和記念筑波研究資料館長の倉持利明氏にご挨拶し、調査事業の概要を説明させていただいた。昭和記念筑波研究資料館の標本利用と研究目的、それから全国科学博物館振興財団の助成金活用についても大変歓迎してくださった。すべての標本撮影と写真の整理まで終えることができた。それから情報整理をした。夜は宿泊所で研究報告用のプレートを作製した。

5 日目 10 月 16 日（金）

調査標本の研究報告用のプレートを作製した。昭和記念筑波研究資料館へ調査標本を返却した。防虫剤がきれていたのを補充した。その時に確認したが、献上標本の箱と同じもの

はほかの標本にも使われており、献上後、入れ替えられたらしいことがわかった。岡山県の記録に残る箱数と一致しないことに説明がつく。

並河氏に昆虫標本と同時に昭和 5 年に献上された植物標本の所在を調べていただいていたのだが、あっけなく確認できた。植物の方は昆虫よりもはるかに整理が進んでおり、すでに専門家による再同定の後、皇室コレクションの分類群ごとの棚に収められており、データベース化もなされていた。したがって、昆虫のように岡山からの献上品がまとまって保管されているわけではなく、分類群ごとに桐箱に収められて収納されていた（写真 7）。



写真 7 岡山県産植物標本の保管状況、右は並河氏（10 月 16 日）

国立科学博物館での現地調査では、事業目的に加えて、作業の合間に、新たに何名もの研究者・技術者と面識を持つことができ、多方面の収蔵状況や標本作製技術においてもこれまでに得ていない情報を得ることができた。

（４）データの整理

三宅氏・神保氏及び奥島が中心となって担当した。すべての調査対象標本について、種名、性別、標本ラベルのデータ等を可能な限り取りまとめ、分布情報として利用可能な状態に整理した。標本ラベルからデータを読み取って入力する作業は小橋理絵子氏（倉敷市立自然史博物館友の会）に担当していただいた。

（６）研究成果の公表

次の通り実施した。

（６－１）倉敷市立自然史博物館研究報告への投稿

3 月 15 日発行の倉敷市立自然史博物館研究報告第 36 号において「昭和天皇に献上された岡山県産昆虫標本」（三宅誠治・神保宇嗣・奥島雄一・岡本泰典・並河 洋・中村剛之共著）の報告記事が掲載された（別刷別添）。本編は約 500 箇所の自然史系博物館などに配布されるほか、希望者に有料頒布される。また、別刷 600 部を作製し、関心がある機関・個人へ配布中である。

（６－２）プレスリリース及び記者発表

3 月 15 日、倉敷市立自然史博物館研究報告の発行を受けて、倉敷市立自然史博物館及び国立科学博物館から同時発表でプレスリリースを行った。

3 月 18 日、倉敷市立自然史博物館にて奥島と三宅氏が出席して記者発表を行った（写真



写真 8 倉敷市立自然史博物館での記者発表の様子 (3月18日)



写真 9 倉敷市立自然史博物館でのポスター展示の様子

8)。

テレビせとうち (ニュース) (3月18日)、毎日新聞 (岡山版) (3月19日)、山陽新聞 (社会面) (4月3日) で報道されたほか、「日本の研究.com」などネットニュースでも取り上げられた。

(6-3) ポスター展示

倉敷市立自然史博物館常設展示室内の「話題の虫」コーナーにて、写真及び解説によるポスターを令和3年3月16日から6月20日までの間、掲示中 (写真9, 10)。

**岡山県から昭和天皇に献上された
90年前の昆虫標本を発見**

昭和5年 (1930年) に昭和天皇が岡山を訪れた際に献上された昆虫標本688点が国立科学博物館昭和記念筑波研究資料館 (つくば市) で発見され、倉敷市立自然史博物館と国立科学博物館を中心とする調査チームによる調査報告が発表されました。

経緯: 昭和5年、昭和天皇が岡山に行幸の際、歓迎行事の一環で多数の昆虫及び植物標本が収集され、天皇に供された。その後、昆虫標本の大部分 (800点余り) は岡山県郷土館 (後に県立図書館の一部) に収蔵されたが、昭和20年 (1945年) 6月の岡山大空襲で建物・標本とも焼失した。

写真: 天皇に供された昆虫・植物標本。昭和五年十一月陸軍特別大演習直方地方幸岡山時記録 (岡山県編、1932) より

一方、記録には昭和天皇に献上された標本があることが記されており、調査したところ、国立科学博物館の昭和天皇ゆかりの標本資料を保管する昭和記念筑波研究資料館にて、当該標本コレクションを発見した。

写真上: 昭和記念筑波研究資料館の外観
写真左: 献上標本が収められた箱とその所在を確認した国立科学博物館の神保町研究主幹
写真下: 国立科学博物館で調査中の三宅誠治氏

調査結果: チョウ・ガ類を中心に3目44科591種661点の同定標本及び27点の未同定標本の合計688点を確認した。それらの大部分は、児童生徒及びその指導者らによって昭和天皇歓迎行事として昭和5年に製作地方を中心に採集された標本で、まとまった岡山県産の昆虫標本としては現存する最古のものである。

詳細報告
三宅誠治・神保町・奥島雄一・岡本泰典・笠河 洋・中村剛之、昭和天皇に献上された岡山県産昆虫標本、倉敷市立自然史博物館研究報告第36号、1-33ページ (2021年3月15日発行)

令和3年3月15日発表 (倉敷市立自然史博物館・国立科学博物館)
2020年度全国科学博物館活動等助成事業 (全国科学博物館振興財団)

昭和記念筑波研究資料館に保存されていた岡山県産昆虫標本 (昭和5年に昭和天皇に献上されたもの)

岡山県新記録のガ類6種 (左列上からマダラシロツマオレガ、アミメテングハマキ、クロシキシヤマメイガ、右列上からオオワタノメイガ、アタコブスジアツバ、ウスサビヒロヤガ)

ヒョウモンモドキ: 岡山県ではすでに絶滅。これまでに知られていなかった産地 (久米郡加美村・現美咲町域) の標本。国内希少野生動植物種。

ヨコヅナトモエ: 南方から飛来した大型の迷蛾で、岡山県から知られる唯一の標本。

実物標本 (一部) 及びパネルの展示
ご生誕120年記念企画展「昭和天皇の生物学ご研究」
会場 国立科学博物館 (東京・上野公園) 日本館1階企画展示室
会期 2021年4月20日 (火) ~6月20日 (日)

写真 10 記者発表及びポスター展示に使用したポスター

(6-4) 研究発表会の開催

令和3年3月20日、倉敷市立美術館を会場として開催された博物館講座「むしむし探検隊研究発表会」(公開)において、次の通り成果を発表した。参加者63名。

★特別報告「昭和天皇に献上された岡山県産昆虫標本」(1時間)

- ・奥島雄一:「調査の経緯と概要について」
- ・岡本泰典:「昭和5年採集動員の経緯と経過」(写真11)
- ・三宅誠治:「90年前の岡山県のカとチョウについて」(写真12)



写真11 公開研究発表会で報告する岡本氏
(3月20日、倉敷市立美術館)



写真12 公開研究発表会で報告する三宅氏
(3月20日、倉敷市立美術館)

(6-5) 国立科学博物館の企画展での標本(一部)及びパネル展示

次の通り、国立科学博物館の企画展で展示が計画されている。

ご生誕120年記念企画展「昭和天皇の生物学ご研究」

会場 国立科学博物館(東京・上野公園)日本館1階企画展示室

会期 令和3年4月20日(火)～6月20日(日)

(7) 会計管理

倉敷市立自然史博物館友の会に本事業専用の特別会計を設け、助成金の受け入れ、支出の管理を行った。令和2年4月の友の会総会(コロナ禍のため誌面開催)において予算計画の承認を受けた。事業後は令和3年4月に開催される同会において決算報告を行う予定である(その前に友の会の他の会計と共に会計監査を受ける)。会計管理は本事業申請者で友の会幹事でもある奥島が担当した。

4. 事業の成果と意義

・チョウ・ガ類を中心に3目44科591種661点の同定標本及び27点の未同定標本(すべてガ類)の合計688点を確認した(写真13)。昭和記念筑波研究資料館には他府県産の昆虫標本も保管されているが、献上昆虫標本としては岡山県産が群を抜いて多いと推定された。



写真 13 昭和記念筑波研究資料館に保存されていた岡山県産昆虫標本（昭和 5 年に昭和天皇に献上されたもの）

- ・それらの大部分は、児童生徒及びその指導者らによって昭和天皇歓迎行事として昭和 5 年（1930 年）に美作地方（岡山県北東部）を中心に採集された標本で、まとまった岡山県産の昆虫標本としては現存する最古のものである。
- ・これまでに岡山県内から記録されたことのないガ類 6 種（マダラシロツマオレガ、アミメテングハマキ、クロスジキシマメイガ、オオワタノメイガ、フタコブスジアツバ、ウスサビイロヤガ）が含まれていた（写真 14）。当時の標本収集に対する熱意が感じられる。
- ・岡山県内ではすでに絶滅したチョウ、ヒョウモンモドキ（国内希少野生動植物種）のこれまでに知られていなかった産地（久米郡加美村＝現美咲町域）の標本を確認した（写真 15）。
- ・岡山県で唯一の記録として知られ、標本の所在が不明とされてきたヨコヅナトモエの標本を確認した（写真 16）。
- ・ごく一部に標本針のさびによる破損が見られるものの、虫害やカビは見られず、全体として非常に良好な状態であり、博物館施設の資料の長期保存及び後世への継承に果たす役割の重要性が見て取れた。
- ・昆虫標本に限らず昭和初期の国内の自然史標本は、戦災あるいは虫害等のため、現存しているものはごく僅かである。これらの資料を調査することで、一世紀近く前からの自然環境の変化を知ることが可能となり、今後の環境保全に役立てられることが期待される。

5. まとめ

本調査により、部分的ではあるが、岡山県の昆虫についてこれまでよりもさらに遡った時代まで生息情報を明らかにすることができた。これまでに岡山県から知られていない種や産地の標本も確認され、岡山県が作成している『岡山県野生生物目録』やその情報をもとに



写真 14 岡山県新記録のガ類 6 種（左列上からマダラシロツマオレガ, アミメテングハマキ, クロスジキシマメイガ, 右列上からオオワタノメイガ, フタコブスジアツバ, ウスサビイロヤガ）



写真 15 ヒョウモンモドキ(岡山県絶滅種, 県内で知られる最古の標本)



写真 16 ヨコヅナトモエ（大型の迷蛾で, 岡山県から知られる唯一の標本）

編纂される『岡山県版レッドデータブック』での評価にも今後、影響する可能性がある。ひいては、本調査によって得られた情報が絶滅危惧種等の保全につながることを期待できる。

本事業の調査対象資料は、昭和天皇に献上されたことで嚴重に管理され、採集から 90 年の時を経て注目されることとなった。一方、同時期に収集されたことが記録に残されている約 18 万点もの昆虫標本のうち、地元岡山県内に残された大多数は残念なことに戦災や適切な管理の下に置かれなかったために失われた可能性が高い。このことは現代の戦争を知らない世代の人々が戦争を通じた悲惨な時代を振り返るきっかけになると同時に、自然史資料を長きにわたって大切にかつ安全に保管し、後世へ継承していくという博物館に共通した使命の重要性を如実に表している。

昭和天皇に献上された自然史標本のうち、昭和天皇がご専門とされた海産無脊椎動物以外の分野では、それらが学術的に調査研究された事例は少なく、本事業は現存する数少ない昭和初期の自然史資料の価値を伝える好事例となると思われる。今回の調査では、1910 年から 1930 年代の岡山県以外の府県産昆虫標本や、1930 年に昆虫標本と同時に献上された岡山県産植物標本の存在も確認できた。今後、本事業の取り組みを参考に国立科学博物館昭和記念筑波研究資料館の収蔵資料の調査研究が進めば、他地域、他分野の同時代の自然史標本の発見、さらには標本情報の活用にも期待が持てる。

国内のその時代の標本は大部分が戦災によって失われ、全国の博物館にも所蔵は極めて乏しい。これまで研究者にあまり注目されていなかった昭和天皇に献上された標本群に光を当てることは、現存する自然史資料が少ない昭和初期以前の時代の標本調査が実現する可能性を広げるきっかけになるとと思われる。